

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に、スタッフが理念を唱和し実践に繋げている。	管理者と職員と一緒に、申し送りの時、理念を唱和することにより、毎日の入居者への関わりにおいて理念を意識し、実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、毎月2回近隣の遊歩道の清掃をしている。	入居者は職員と一緒に地域の祭りや運動会に参加している。地元の高校生の職場体験やボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場を利用して、地域貢献を実践することを検討していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフや研修内容や行った行事等について報告・話し合いを持ち、施設への理解を得てより充実したサービスを行えるよう取り組んでいる。	1回/2ヶ月、運営推進会議を開催。町内会長、民生委員、包括支援センター職員、家族代表に参加してもらっている。研修の内容や行事について報告し、話し合い、地域の方からの意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際、事業所での取り組みについて伝えている。	生活保護の人を受け入れているため市の職員が随時来訪している。困難事例について福祉事務所職員と相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き、身体拘束の具体的な行為について学習していく。	身体拘束委員会で話し合い、言葉による拘束も含めて、入居者の意思に沿わない行動を強いることの無いように気をつけている。拘束と安全の二律背反の問題について家族に説明し、話し合って最良の方法を見つけようと試行錯誤を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを行い、虐待に繋がる勉強会を開き、スタッフに周知してもらい実践していくことを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や自立支援事業について必要に応じて対応している。制度について、学ぶ機会を検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等について説明をしている。家族の同意が必要であれば同意書で確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等への年に一度の満足度アンケートや、介護相談員派遣事業を利用し、利用者の意見を運営に反している。	設置している意見箱への投書はないが、年1回 家族に満足度アンケートの協力を依頼し、その都度 家族の思いと現状との差異について職員で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、スタッフの意見や考えを遠慮せず出せるように働きかけている。年2回、個人面接を行っている。	年2回、職員一人一人に自己評価表を提出してもらい、管理者と個人面談し、包み隠すこと無く話し合っている。職員の提案を積極的に採用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断を実施し、スタッフの健康維持に役立っている。勤務形態は、職員の希望を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修に参加したり、かとう内科の勉強会に参加し、報告書を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や交流等により、充実したサービスが行えるよう検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者について相談のあったときにはその内容について記録を残し、その後も状況を確認している。入所前には事前面接を行い本人について理解する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取り、話を伺いながら相談に応じるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のあったときには、相談者の状況を確認し、必要ならば他のサービス利用へ対応を考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションをはかり、本人の思いや希望を汲むように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者が交流を気兼ねなく出来るよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の体験や経験について話を聞く機会を持ち、家族との外泊・外出についても支援している。	入居者の友人や馴染みの人が面会に訪れている。家族の月命日には墓参りに行ったり、また、帰宅を希望する入居者には職員が付き添って希望に沿えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮した席を考えたり入浴・洗面・トイレなどでトラブルのないよう順番を考えたりしている。又、洗濯物を協力し合って、畳んでくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、面会の希望があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議を開いて、ケアプランに本人の希望を反映させている。	市の介護相談員が来訪し、入居者と面談している。スタッフには遠慮して言えない事も介護相談員には話している。介護相談員からの情報も参考にしながら、本人の思いを大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ、本人や家族から今までの暮らしぶりを把握する機会を持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで入居者の情報を共有し、日々の様子を記録して把握している。連絡ノートを作り、細かい情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行い、本人の状態に合わせ、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。	ケアカンファレンスを継続し、入居者を担当している職員の意見や家族の意見を聞き、家族や本人の思いを大切にしてケアプランを作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄表や健康チェック表を利用して、日々の体調の把握に努め、ケアに反映させている。自分以外の人の介護記録に目を通し、何があったかを共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人に出来る手仕事をお願いしたり、季節の行事を通して色々なサービスを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物の際には、行きたいお店に行き援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取り、必要な時は総合病院への受診を行っている。	月2回かかりつけ医を受診している。また、変化があったときには、家族に協力してもらったり、常勤の看護師が介助することで通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談したり、往診時・看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の往診時に情報交換や、相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い意思確認書を作成し、家族の思いや本人の様子を見ながら随時対応している。	入居時にアンケートをとり、重度化した場合の入院先など家族の思いを確認している。医師、看護師など関係者も交えて、清拭から葬送まで取り組める体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時にはその都度、対応が適切であったか検討し、その後の対応に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に入居者も含めて避難訓練を行い対応の手順について学習している。	年2回、避難訓練を、消防署の指導のもと、家族、近所の人に参加してもらって実施している。	警報について、施設内は良く聞こえるが、外部には聞こえない様である。対策を検討している様なので、今後の対応に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は入居者の個性を把握し、本人の生活スタイルに合わせ、独りで食事を摂るなど、無理に他の入居者と同じ行動を強いることの無いように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の希望を尋ね、自己決定のサポートを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールと居室を自由に行き来して頂き、レクリエーションを行う時は、強制するのではなく、本人の意思を確認する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	結髪の必要な方は、お手伝いをしている。外出時はTPOに合わせた服装になるよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は陶器の家庭的なものを使い、ご自分の箸・湯のみ・茶碗を使って頂く。盛り付けも、美味しく見えるように工夫し、熱いものは熱いうちにお出しする。	入居者は職員と一緒に食事を用意している。入居者の要望に応じて、外出をして好きなものを食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいような形態を工夫している。水分摂取量の少ない方は、お茶以外の飲み物の時に、飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い入れ歯の仕上げ磨きは、スタッフが援助している。歯科往診時に、相談しアドバイスに従いケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時に、リフレの方は紙パンツで過ごせるように支援する。日中は、PTイレではなくトイレで排泄できるように支援している。	夜は紙パンツやオシメ等使用している入居者もいるが、日中は出来るだけ布パンツを着用し、トイレで排泄できるよう声かけ、誘導し、自立を支援している。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作り、排便のリズムを確認している。必要に応じて服薬コントロールを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番や、お湯の温度にも配慮している。入浴拒否のある方は、時間をずらしたり声掛けを工夫している。	週2回の入浴を基本としている。職員は入居者の意思を確認し、臨機応変に対応し、快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調節をこまめに行ったり、本人の希望に合わせている。自分で調節できる人にはリモコンを渡している。日中、昼寝をする方は、自由に居室で休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には薬を手渡しし、服薬者名・日付・朝昼夕を声に出して誤薬を防ぐ。飲み込みを確認する。飲みにくい場合は、ご飯にかけるなど工夫する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きやお絞り巻き、洗濯物たたみをお願いしたり、食事前には献立を読んでもいただき「いただきます」の声掛けをお願いする。買物に出かけた時には好きなものを買っていただき、おやつの時に食べていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパーへ買物、支払いの支援を行う。施設の外回りの掃除をしてくださる方も居られる。季候の良い時期には散歩に出かける。	週1回位のペースで職員が介助している。遊歩道を散歩したり、近所の花壇を觀賞しに出かけたりしている。また、体調の良い入居者は職員と一緒に買い物に行ったり、歩行器を利用して屋内を歩行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際には、見て、実際手にとって、好きなものを選んでもらえるよう援助する。自分でお金の計算をしようとする方は、計算を援助する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかける援助をする。手紙・葉書を出す方は、発送の手続きを援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品を季節ごとに掲示したり、壁には季節に合った壁紙を掲示している。	みんなで作った作品を壁に飾っている。ひな人形や鯉のぼりを屋内に飾り、季節感を演出している。入居者一人ひとりが趣味を活かして楽しく過ごせるよう雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い窓辺にくつろげるように椅子やテーブルを置いたり、居室入り口に暖簾をつけて落ち着けるように工夫している。入居者同志が落ち着けるように席をきめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の引き出し・時計・筆筒・テレビ・布団など使い慣れたものを使って頂いている。家族写真や、好きな俳優のポスターを貼ったりしている。	家で使っていたダンスなど家具、愛用品を持ってきてもらっている。また、芸能人のポスターや家族の写真、書画などを居室に飾り、入居者が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙を工夫したり、居室には本人の写真付きで名前を書いて、分かりやすくしている。		